

黒濱大和先生 : Lancet Neurology (2010) (4):381-90.

**“多発性硬化症の分野にも生物学的製剤の本格参入か？”**

**Daclizumab in active relapsing multiple sclerosis: a phase 2, randomised, double-blind, placebo-controlled, add-on trial with interferon beta. (CHOICE study)**

【背景】多発性硬化症に対する今回は CD4<sup>+</sup>T 細胞上の IL-2  $\alpha$  受容体を標的にしたモノクローナル抗体 Daclizumab (DZB) の再燃抑制の効果が画像、臨床像にて確認されました。

【方法】少なくとも一度は寛解再発した IFN $\beta$  治療中の MS 患者 288 名に対し、placebo 群 (n=77), low-dose DZB 群 (n=78)、high-dose DZB 群 (n=75) をそれぞれ Add-on した治療を 20 wks 行い、MRI 上のガドリニウム陽性の新規病変数について検討がなされました。

【結果】ガドリニウム陽性の新規および増大した病変数は、IFN- $\beta$ +placebo 群で 4.75 であったのに対し、IFN- $\beta$ +low-dose DZB 群では 3.58 (p=0.51), IFN- $\beta$ +high-dose DZB 群では 1.32 (p=0.004) と high dose Add-on 群で有意に新規病変を抑制していました。特に IFN に対する抗体陽性患者では 20.76 あった新規病変を、low-dose 群 0.32、high-dose 群 1.21 まで劇的に抑制しており、さらにその抑制機序には CD56 陽性の制御性NK細胞の増殖の関与が示唆されました。

【結論】他の自己免疫疾患、例えば新規発症の1型糖尿病では、この DZB は、MMFと併用効果を試されましたが、芳しい効果を認めていません。今後、MSの分野での臨床像の改善が確認されれば、この Daclizumab が、臓器特異的自己免疫疾患治療の主役に躍り出るかもしれません。。

(文責阿比留)